

2020 年度活動方針（案）

2018 年度の死因に第一位「悪性新生物」、第二位「心疾患」は変わらないが、第三位が「肺炎」から「老衰」に変わったと言うニュースが注目された。多くの健康志向の人達が運動、食生活、睡眠などの改善をし、健康寿命を延ばす努力をしてきた結果であろうか。元気に過ごしていたが、ある時から急に歩行が危うくなり食べられなくなる。病気ではと思って受診しても特に病気のサインはないという話をお聞きになった方も多いのではないか。ありんこの会の支援で一人暮らしの老衰死(平穏死、尊厳死)の方に関わる経験をし、誰もが迎える終末期の迎え方を学ばされています。

そんな事を考えていたとき、突然新型コロナの得体の知れないニュースに身近な所も世界中も不安に襲われ始め、健康寿命とか老衰死などの話はなんと平和な事かと思ってしまう。不安が不安を呼びパニックに陥る事は避けなければならない。自分の力ではどうにもならない状態を招くからである。例えそんな状態になったとしても「自分の身だけを守ろうとすると不安になる。でも人の命を守ろうとすると不安が消える」という貴重な人々の体験がある。そんな言葉に支えられて希望を失わずに進みたい。

1. 心身ともに健康を維持し、生きがいや働きがいを見出すため、会員が地域で上手につながって助け合う仕組みを創る。

- ① 運営委員会を毎月第3土曜日に開催し、午後は会員の交流の場として学習会や楽しい行事を企画する。送迎を希望する人が増えているので送迎体制を充実させる。
- ② つどいの家「はむろ」の介護事業にスタッフ、ボランティア、利用者として参加し、互助の精神を培って共に成長していく。
- ③ 塚原地区と南平台地区で開催している井戸端会が継続出来るよう支援する。
- ④ 「よくする会祭り」を年1回行い、会員相互の交流をはかる。

2. 病気や障がいを負っても互いに尊厳をもって生きられるよう、「弱さ」を共有して支えあい共に成長していく。

- ① つどいの家「はむろ」の介護事業や予防活動を充実させると共に、ケアの質を高めていけるよう互いに協力し合う。
- ② 会員の互助活動「ありんこの会」の活動の充実をはかり、支援会員、利用会員も増やしていく。
- ③ 「認知症を理解し地域で支える会」の活動等に参加・協力し、認知症本人とその家族の支援に貢献する。
- ④ 氷室のバプテスト教会で月1回開催している「ほっこりカフェ氷室」への参加・協力を呼び掛けていく。